

30108砂防工事における死傷災害事例(最大99事例まで) (2020年)

No	年	月	発生時	死傷災害事例	年齢	事故の型	起因物(小)	労働者規模
1	2020	1	10 ～ 11	ネットフェンス基礎工事で、掘削をするためにブレーカーを準備していた。その際、同僚にブレーカーを渡そうとしたとき、落として右足首に裂傷を負った。	21	4	149	10 ～ 29
2	2020	3	13 ～ 14	盛土工事で芝生の散水作業中、散水車の圧力を上げたため、ホースが跳ねて首に当たり打撲を負った。	76	6	149	1 ～ 9
3	2020	4	16 ～ 17	林道の災害復旧作業時、法面上部（傾斜距離20m）より落下し、左肩を骨折した。ヘルメット、安全帯は着用していたが固定確認せず。	59	1	711	1 ～ 9
4	2020	5	13 ～ 14	段差（1m）のある場所で、立木の伐採中、立木の枝に引っ掛かり、枝が落下して、作業員に当たり、下の段に転落した。その際、右側頭蓋骨、右側頬、右側首を骨折した。	44	4	712	1 ～ 9
5	2020	5	13 ～ 14	掘削面の整形作業をするため、軽量ハンドブレーカーを用いて高さ1.5m上にはしごを掛けて下から作業をしていたとき、はしごを固定していなかったため、バランスを崩し転落して、腰・左肘・右膝を打撲した。	38	1	371	1 ～ 9
6	2020	5	14 ～ 15	山の斜面で支障木の処理中、グランプルが枝葉を掴んだとき、グランプルの先が丸太（長さ50cm、径30cm）に接触し、転げ落ちて下方いた被災者のヘルメットに当たり、前頭部打撲傷、外傷性頸部症候群、および、頭部打撲時に外傷性眼内レンズ亜脱臼を発症した。	50	4	171	30 ～ 49

7	2020	7	20 ～ 21	午前中から、日陰のない切土の斜面で作業を行っていた際、気分が悪くなって食事が取れず、水分補給はしていたものの、嘔吐を繰り返して熱中症になった。	34	11	715	1 ～ 9
8	2020	7	16 ～ 17	工事で、安全ロープを設置するため移動していた際、法肩に安全帯を使用せずに接近したところ3m下に転落し、床付け面に打ち込まれていた木杭（15mm角、高さ90cm）に、左胸を強打して骨折した。	63	1	711	50 ～ 99
9	2020	9	15 ～ 16	杉丸太を被災者が立ち込み中、足下が滑り杉丸太のバランスを崩して、被災者の背中に乗りかかり、背骨を折った。	66	6	522	1 ～ 9
10	2020	10	10 ～ 11	鋼製枠仮組立のため、仮組ヤードで3段目の組み立て中、組み立て済みの柱が固定前に倒れて、右腕が鋼材と鋼材に挟まれて骨折した。	57	6	521	1 ～ 9
11	2020	10	11 ～ 12	災害復旧工事の現場で測量作業中、足下の土が崩れて5m下へ転落し、左手首を骨折した。	21	1	419	1 ～ 9
12	2020	11	7 ～ 8	現場作業開始前に、作業箇所へ移動するため、堰堤のステップを下りようと足をかけ、ステップを握ろうとしたところ掴み損ね、ステップ上の右足が滑り背中から転倒して、右足腓骨を折った。	58	2	413	1 ～ 9
13	2020	12	10 ～ 11	当社の建設現場で、職員が新型コロナウイルス感染症の陽性と判明したため、PCR検査を受診し、陽性と判定され、新型コロナウイルス感染症を発症した。	26	90	911	1 ～ 9
14	2020	12	12 ～ 13	同じ職場の職員1名が新型コロナウイルスの抗原検査の結果、陽性反応を受けたため、PCR検査を受けたところ陽性と判定され、新型コロナウイルス感染による発熱症状を発症した。なお、勤務中は、マスクを着用していた。	25	90	911	1 ～ 9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各小業種における死傷災害事例\(最大99事例まで\) \(2020年\) に戻る。](#)